

東海エリア初 総合病院 聖隷三方原病院 てんかん治療をサポート 最新手術支援ロボット 「ROSA One ロボットシステム」を導入

総合病院 聖隷三方原病院 ベテルてんかんセンター（センター長 山添知宏）は、ジンマーバイオメッド社製の最新手術支援ロボット「ROSA One（ロザワン） ロボットシステム」を導入しました。**全国では7施設目、東海エリアでは初導入になります。**

「ROSA One ロボットシステム」は、脳神経外科手術を支援するロボットで、特にてんかん外科治療において、脳波測定用の電極留置や病巣部の特定を、従来よりも正確かつ低侵襲に行うことが可能です。これにより、手術時間の短縮や合併症リスクの低減が期待され、患者さんの負担を軽減できます。

『ROSA One ロボットシステム』の特徴

- 高精度なナビゲーションにより、脳内のターゲット部位への電極留置を正確に行える
- 低侵襲で短時間の手技が可能となり、患者さんの負担を軽減できる
- 術前計画から術中支援まで一貫してサポートする

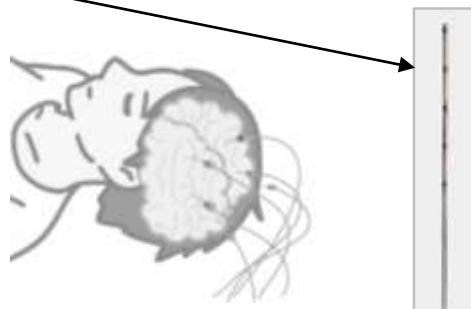


『ROSA One ロボットシステム』による治療メリット

いままで開頭による電極留置から、脳に小さい穴から細い電極を入れる「低位的頭蓋内電極留置（SEEG）による深部脳波記録」が可能になりました。

定位的頭蓋内電極留置（SEEG）による深部脳波記録

- 開頭せずに留置可能患者負担・感染リスク 低減
- 平均実手術時間を短縮
- 脳深部の脳波も補足可能であり、広範囲の評価が可能
- 切除移行後の発作消失率はグリッド電極に比べ高い



【取材に関するお願い】

今回の内容について貴社で取り上げていただけると幸いに存じます。

取材を希望される場合は、下記問い合わせ担当者までご一報いただければ幸いです。